

低侵襲心臓手術外来を開設

MICSで傷跡目立たず

北海道大野記念

西区の北海道大野記念 MICS外来」を開設
病院（齋藤孝次理事長、
入江伸介院長、276床）冠動脈バイパス手術や3
は、「低侵襲心臓手術（D内視鏡を用いた弁膜症



手術室スタッフがモニターを通して術野の状況を共有

内科、心臓血管外科がそ
れぞれの専門性を生かし
た最新治療を提供してい
る。

5月に心臓血管外科医
長として渡邊隼医師が赴
任したのをきっかけに、
低侵襲手術を本格化。よ
り多くの患者、医療者に
知ってもらいたいと、渡
邊院長を含め、心臓血管
外科指導医3人のほか、
多職種による医療チーム
を結成し、専門外来を立
ち上げた。

手術などで患者の負担を
軽減し、早期社会復帰に
つなげていく。
同病院は、「がん」「脳
卒中」「心臓病」の3大
疾病と運動器疾患を中
心とした高度急性期の病
院として最新の診断機器
と治療設備を整備。心臓
疾患に対しては、循環器

同外来の対象疾患は、
冠動脈バイパス手術（狭

心症、心筋梗塞）、心臓
弁膜症手術（大動脈弁
僧帽弁、三尖弁）、不整
脈 MAZE手術（心房
細動）、左心耳切除術。
従来の冠動脈バイパス
手術は、開胸による胸骨
正中切開で切開口は20cm
と大きく、胸骨を切開す
るため患者の負担が大き
いほか、回復まで時間が
かかる。

一方、同病院で行う低
侵襲心臓手術（MICS）
は、肋骨と肋骨の間を切
開してアプローチする手
術方法で、切開口は3、
10cm程度のため傷跡が目
立たない。

骨を切開しないので、
術後の感染症である縦隔
炎を予防でき、出血量が
少ないことから輸血量も
少なくて済む。患者の負
担は小さく、入院期間は
2週間だったのが1週間
程度に短縮、早期社会復
帰が可能。退院した週に
登山を行った患者もいる
という。

弁膜症に対しては、鏡
視下手術を実施。2D内
視鏡に替わって、3D内
視鏡を使用している。従
来と比べて、術野を3次
元的に把握することが
でき、手術の正確性、安

全性が2Dと比べて優れ
にも活用していく考え。
「低侵襲手術は、誰で
も適応となる訳ではな
い。患者やその家族だけ
でなく、担当かかりつけ
医からも気軽に相談して
もらいたい」と渡邊院長
は話す。

共有できることから、医
師や看護師、コメディカ
ルスタッフへの教育効果
も高く、スタッフの育成
は話す。